

高齢者が
住みよい街

港区(東京都)

65歳以上の就業者比率

31.09% (1位)

(注) 2010年10月



高齢者の就業者比率、人口当たり医師数、小売店の数でそれぞれ1位となり、総合順位で3位にランクインした港区。医師数は、済生会中央病院や虎の門病院といった有名病院をはじめ大規模な医療機関の多いことが関係している。小売店の多さは、繁華街や大規模商業施設などがある都心ならではの利便性の高さを示しているといえるだろう。

高齢者の就業者比率の高さについて、公益財団法人東京しごと財団しごとセンター課長の岡野弘氏は、「都心で企業数が多いため高齢者向けの求人も比較的多い。また、資産状況に余裕のある高齢者の方は給料の額など労働条件にそれほどこだわらないので就職が決まりやすいものもあるのではないかと分析する。そのほか、高級住宅地の住民を中心に、企業の役員として65歳以降も働き続ける人が多いといったことも高齢者就業者比率の高さの理由に挙げられそうだ。

55歳以上の求人に特化 無料の職業紹介所

港区は高齢者の就業率を高める取り組みを行っている。その一つが、東京しごと財団が支援する、55歳以上を対象とした無料職業紹介所「みなと*しごと55」だ。

同所のようなアクティブシニア就業支援センターは東京都内に14カ所あるが、「みなと*しごと55」は昨年度、就職者数が2219名と全事業所中、2番目になった。

企業は人材募集時に年齢条件を出さないが、「みなと*しごと55」では地元を中心に各企業を訪問するなどして本音を聞き出し、55歳以上でも応募可能な求人を集めている。職種としては医療・介護、清掃、

企業集積で求人数も多い

(右)「みなと*しごと55」の様子。(左)同紹介所を通じて就職が決まった広瀬旭氏(写真左)と談笑する同所マネージャーの濱名邦雄氏

column

特別養護老人ホームの待機者は42万人 よく死ぬための環境を考える

「一口に高齢者といっても、前期高齢者と後期高齢者とは必要とされる住環境もまったく違って」と小竹雅子氏(市民福祉情報オフィス・ハスカップ主宰)は指摘する。

通常、前期高齢者(65~74歳)は農業をやりたい、旅行に行きたいといった趣味を楽しむ余裕がある。仕事を引退すれば居住地も比較的自由に選ぶことも可能だ。しかし後期高齢者(75歳以上)になると健康面で不安が出てくる。超高齢者(85歳以上)ともなれば、「健康な人であっても、何らかの他者の支援が必要になってくる」(小竹氏)。となれば住む場所にも制約がかかってくる。

子どもに面倒を見てもらうにも、現役世代で夫婦共働きへの流れが進んでいる中では難しい。経済的条件がクリアでき

れば、介護付き有料老人ホームに入る方法はある。要介護状態になれば、看取りまでする特別養護老人ホームなどに頼りたいところだが、待機者が全国42万人もいて順番待ちの状況。特に都会において事情は深刻だ。

「よく死ぬためにどういう環境がよいか、元気なうちから考えておく必要がある」と小竹氏は言う。



子どもに面倒を見てもらうのは難しい時代に

マンション等の管理という三つがほとんど。事務系の職種を探す求職者が多いためミスマッチもあるが、それまでの勤務経験を生かして経理などの事務職に就く人もいるという。「みなと*しごと55」を通じて駅

人に特化してハローワークよりスムーズに決まった」と語る。「日本の労働人口が減少する中で高齢者の労働力の重要性が高まっていく。高齢者も、年金の支給開始年齢の引き上げで定年以降も収入の確保が必須」とみずほ総合研究所・堀江奈保子研究員は指摘する。定年後も元気に働き続けやすい点が、港区の魅力の一つだ。